

道路インフラにおける実証フィールド提供について

川崎市は、交通渋滞及び交通事故などの課題の解決に向けて、効率的、効果的に取組を推進するため、ICT等のデジタル技術を活用した新しい製品や技術開発の現場実証に必要となるフィールド（川崎市が管理する道路施設等）を企業等に提供します

1 背景・経緯

- 渋滞や交通事故は、大きな経済損失等を招くとともに、環境の悪化や安全性低下など、市民生活の豊かさに大きく関わることから、対策にはハード整備とソフト施策をバランスよく行い、効果を早期に発現させる効率的、効果的な取組が求められている
- 国土交通省では、都市、地域課題の解決のため、「スマートシティプロジェクト」を始動させるなど、行政や企業が保有するデータや、AI（人工知能）やIoTなど新たな技術を活用することによる快適な市民生活や地域経済の活性化に向けた取組を進めている
- 本市においても、市民生活の質の向上に向けて、新技術を活用していくためには、行政と企業等が一層の連携、協力を図り、行政・市民の目線を取り入れた技術開発に繋げていくことが重要であることから、最初のステップとして道路インフラを技術開発等の実証フィールドとして提供（占用許可等）するものである

2 課題

- 道路交通の状況把握（道路計画）について
 - 従来の調査手法（人力）では、分析結果の可視化、協議に1年程度かかるなど、時間を要している
 - 人力調査で取得するデータは、特定の1日及び地点の12時間または24時間交通量であり、常時かつ面的に把握することが難しく、対症療法的な対策に留まる等の課題を抱えている
- 新技術の開発、導入について
 - 企業等は、開発時に現場実証を行うフィールドが無いことから、行政側が求めるニーズの把握やそれに対応する製品及び技術開発などに多大な労力と時間を要している
 - 行政は、企業等が持つ先端技術に関する情報や導入した際の現場での操作性・汎用性が把握できない

3 目的・効果

交通渋滞、交通事故の削減や内部事務の効率化などに資する、新しい製品・技術開発における企業等の現場実証を支援するとともに、先進技術や課題、問題点などの情報収集を図る

⇒例えば交差点にAIカメラが設置された場合は、道路の状況がリアルタイムに把握でき、時間毎の交通量などのデータが取得できることから、今後の渋滞対策などの道路計画に活用することが期待

実証結果を踏まえ、庁内関係部署による横断的な情報共有・検討

ICT等を活用した道路行政のデジタル化を推進し、安全安心快適な道路交通環境の提供や効率的・効果的な道路施策の実現を目指す

【取組の将来像】



- 実証フィールドの提供
- 行政ニーズや課題の提示



開発スピードの向上
製品改良、技術革新
新産業等の創出

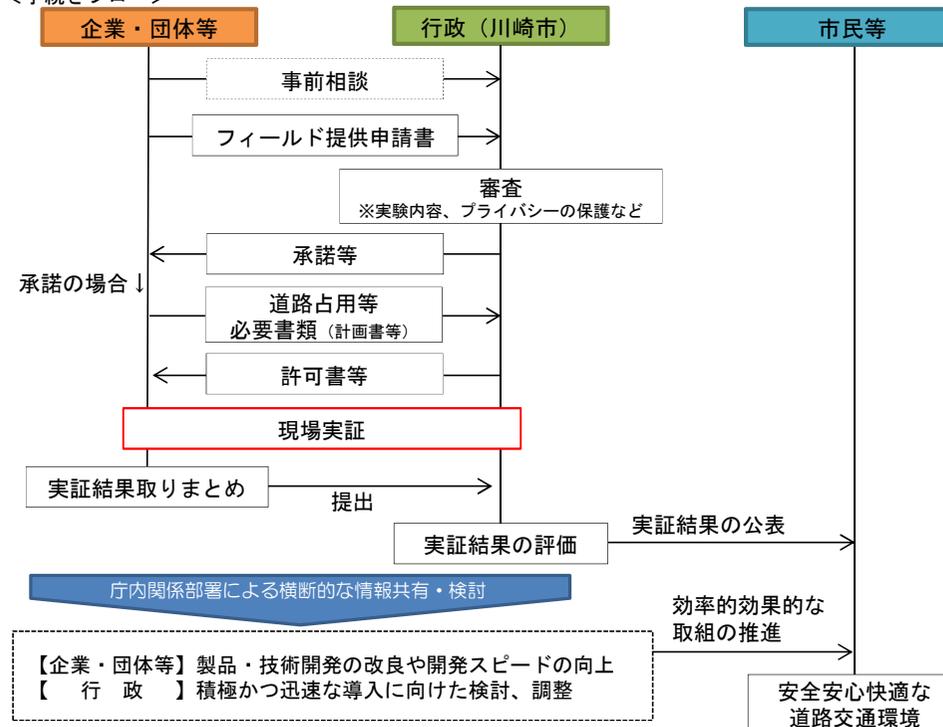
- 製品、技術開発の実証実験
- 効果の確認、研究開発
- 課題解決手法の提示

より精度の高い根拠に基づく道路計画
渋滞や事故の削減
新技術の集積

4 対象テーマ・許可の考え方(手法)

- 対象とする主な製品・技術（下記以外のテーマは内容に応じて所管課を御紹介いたします）
道路計画関係
（ア）AIカメラ（交通量、混雑度等の計測）
（イ）道路交通マネジメントに寄与する技術 など
- 対象施設
川崎市が管理する国道、県道、市道
- 費用負担
現場実証等の実施に要する費用は全て申請者（企業・団体等）の負担とします（占用料は免除）
- 申請等のフロー
下記フローに基づき、申請内容の審査を行い、実証実験実施の可否を判断します
- その他
 - この取組は、本市が製品や技術の導入を確約するものではありません
 - 製品や技術の効果、課題、改善事項等について申請者と共有し、意見交換を行います
 - 実証結果の評価を行い、市ホームページ等で公表します

<手続きフロー>



5 スケジュール

	2020年度（令和2年度）				2021年度以降
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	
実証フィールド（道路等）の提供			11月公表	募集周知 随時受付	
	先行準備		審査	実証着手・効果検証	